

〈報 告〉

同朋大学社会福祉学部 2021 年度大学教育改革推進事業

## 「中部圏教育改革ネットワーク」

(旧 産業界のニーズに対応した教育改善・充実整備事業)

～ 2021 年度の実践報告～

渡 邊 幸 良

### はじめに

平成24年9月20日に、本学社会福祉学部は、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に『前に踏み出し、考え抜き、チームで社会と結びつく教育力の成長』というテーマで、三重大学を幹事校として中部圏の25大学で応募したところ選定された。選定されたことは、長年培って来た本学社会福祉学部の社会福祉教育が高く評価されたと思われる。なお、平成26年度でもってこの事業は無事に終了した。しかし、この取り組みの重要性と大学の首脳部のご尽力により、平成27年度からは、引き続き大学の自己資金で運営されることになった。現在は、社会福祉学部の教育活動の一環として定着してきている。

「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されています。「社会人基礎力」は、「職場や地域社会で様々な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として、経済産業省が2006（平成18）年から提唱している。この社会人基礎力を、本学社会福祉学部では「福祉実践基礎力」と表現している。福祉実践基礎力とは、「心が動く力」、「じっくり考える

力」、「共に生きる力」の3つの能力（13の能力）から構成されている。「福祉実践基礎力」は、本学の建学の精神である『同朋和敬』の精神の社会福祉現場に具現化する要素として重要であると考えている。

なお、2021年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部の事業は中止せざるを得ないような状況であった。学生らに満足のいくような充実した事業を展開できず、今後コロナ禍でのこの事業の在り方について課題が残る一年であった。

## I. 事業の概要と目的

現在まで、本学部では、まず初年次ゼミにおいてゼミ単位でのディベートやプレゼンテーションおよびフィールドワークを行って、能動的で自律的・自立的な学習態度の育成に努めている。そして、2～4年では、演習やゼミにおいて、さらに能動的な学習ができるよう促してきた。また、学外研修での施設見学やボランティア論、ボランティア活動などでの実体験をして、地域や福祉業界との連携を深めている。そして、円滑な学習を進めるためにアドバイザー制度で補完している。そこで、本事業では、今までの個々の教育改善を入学前プログラムと初年次教育の連結のための教材を作成・利用する有機的結合、講義科目での学生参加型授業の拡大、演習科目での共同学習の拡大と問題解決能力の育成、および講義・演習・実習科目との有機的結合を行うことにより、教育改革を全教員がチャレンジしてチームで働いて実施をしている。

このような取組により、従来の学士課程教育を活性化させ、学生の学習意欲の高揚をもたらすことができる。本取組の目的は、産業界（社会福祉現場）のニーズに対応した高度な専門性と実践力を身につけた福祉人材を育成ことである。そこで、本学部の学生が社会的・職業的に自立し、産業界のニーズに対応した人材となるための大きな柱は、1.アクティブラーニ

ングを活用した教育力の強化、および2.地域・産業界との連携力の強化である〔(1)地域の産業界と連携した実学的専門教育の導入、(2)産学連携授業の実施、(3)地域の産業界と連携した実践的なインターンシップ〕である。

具体的には次のようになる。

## 1. アクティブラーニングを活用した教育力の強化

学生が社会人基礎力を身に着けるために、初期段階としては、初年次教育の基礎ゼミ等でマインドマップやKJ法の手法を学び、またグループワークを実施し実践的な学びを展開した。

## 2. 地域・産業界との連携力の強化

### (1) 地域の産業界と連携した実学的専門教育の導入

- ① 社会福祉現場のOB・OGとの連携による現状理解とニーズ把握  
「同朋大学社会福祉学会・同朋大学社会福祉学部卒社会福祉関係  
従事者のつどい」
- ② 保育現場のニーズに対応した保育者養成「実践力を高めるキッズカレッジ」
- ③ キッズカレッジ実技講習会
- ④ 介護福祉業界のニーズに対応した社会福祉教育（介護福祉）
- ⑤ 産業界との協働による「精神障害者サポートプロジェクト」

### (2) 産学連携授業の実施

社会福祉現場で活躍している福祉実務家等と連携した実学的な科目を運営する。

- ①キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ、②ボランティア活動、③傾聴活動論、④その他（実務家を招聘する科目）

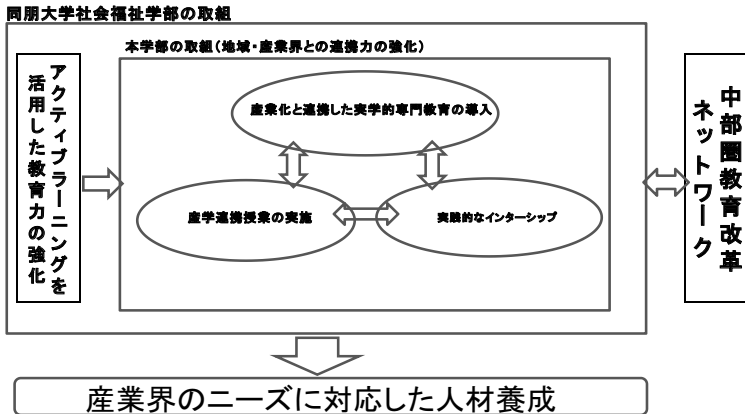
### (3) 地域の産業界と連携した実践的なインターンシップの実施

地域の社会福祉施設、NPO法人、NGO団体、ボランティア団体等と協働・連携し、より実践的な内容のインターシップに質的な変更を行う。

①インターンシップ I・II・III・IV

以上のような(1)～(3)の取り組みを有機的・体系的に組み合わせながら、産業界のニーズに対応した人材の育成を図る。さらに、地域の・産業界との連携強化を推進し、その成果を検証するために、グループ内の分科会やグループ全体の産学協働連携協議会において本学の取り組みの成功体験、失敗体験を報告します。また、他大学の取り組みを共有し合う中で共通理解をし、さらなるチャレンジに向けて取り組みの質の向上を図る。

なお、平成27年度以降、大学で経費を予算化し継続している。



## Ⅱ. 各事業の報告

2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、<地域・産業界との連携力の強化>の中で、一部の取り組みのみ実施された。実施された取り組みについて、下記のように報告する。

### 1. 「同朋大学社会福祉学会・同朋大学社会福祉関係従事者の集い」

#### ○目的

学生、教員、OB・OGがともに、現代社会における福祉的課題について共に考え、共に学び、交流を深める場とする。

#### ○内容

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら、同朋大学社会福祉関係従事者の集いは中止した。2021年10月20日（水）14時40分から15時40分まで、博聞館2階大会議室にて、代表学生と教員の少人数で、同朋大学社会福祉学会の総会のみを実施した。

#### ○成果

代表学生は、総会の企画・運営によって福祉実践力を高めることができた。また、コロナ禍でどのようなことが私たちに求められているのかを考えることできた。

### 2. 「実践力を高めるキッズカレッジ～学内実施型子育て支援活動～」

#### ○目的

本学社会福祉学科子ども学専攻では、演習科目に位置付けられている学内型子育て支援事業「キッズカレッジ」を実施しており、豊かな感性やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、学び続ける意欲など精神面の強い学生を育てることを目的としている。

### ○内 容・実 績

キッズカレッジは子ども学専攻にとって、実際に親子と触れ合いながら、授業で得た知識・技能を実践し、学を深める大切な場である。

しかし、2021年度も新型コロナウイルス感染症流行拡大防止のため、前期はキャンセル、後期は遠隔での実施に変更になった。子ども学専攻では昨年度に引き続き、動画配信型のキッズカレッジを後期に行った。保育に特化した動画配信アプリ「てのりの」を利用し、10月20日から12月8日までのほぼ毎週水曜日に学生と教員が制作した合計20本の動画を配信した。

1年ゼミによる動画では、オリジナルペープサート、貼り絵、お絵かき、おりがみ、センサリーボトルづくり、マラカスづくり、動物たいそろう、新聞紙遊び等、親子で楽しむことのできる様々な遊びが紹介された。中には、手洗い動画を作成して、楽しく正しい手洗いに取り組む方法を紹介する動画もあった。

後期のキッズカレッジは、「てのりの」アプリを利用したインターネット上の動画配信型のものとなった。1年ゼミと3年ゼミによる親子のできる手遊び、お菓子作り、ペープサイトの実演など保育実技の動画と、教員によるミニ講座など合計22本の動画を配信した。

### ○成 果

直接のやりとりはできなかったが、「親子」にみてもらうことを意識した活動を行うことができた。学生は、授業で得た知識・技能を実践し、学びを深めることができた。動画制作を通して学生は、子どもの発達や認知など授業で得た知識・技能を実践し学びを深めることができた。そして、インターネットを介した動画配信のため、直接のやりとりはできなかったが、「親子」にみてもらうことを意識した活動を行うことができた。

### 3. 「精神障害者サポートプロジェクト」

#### ○目的

地域に暮らす精神障害者が日頃利用できる場所として、精神科病院のデイケアや地域活動支援センター、就労継続支援施設などの障害福祉施設や事業所が存在する。それらは、「精神科医療機関を受診していること、精神障害者保健福祉手帳をもっていること」などの条件で利用登録し活用するものであるが、そのような制度などに縛られず、精神障害者がふらっと立ち寄れるような場所の提供を目指すのが、このプロジェクトの目的である。

#### ○内容・実績

2021年度の目的を、①体験を通して精神障害者のことを理解する、②日常生活の中で困っていることがあったとき力になれるようにするとして実施した。学生は2グループに分かれ、2021年12月2日と9日に、社会福祉法人親愛の里ジョブサポートフォルテに出向き、施設見学とともに4名のピアサポーターから直接話を伺うことができた。終了後、このプロジェクトを準備段階から振り返り、自分たちが気づいたこと、学んだこと、課題等を報告書にまとめた。

### 4. 「ボランティア活動」

#### ○目的

ボランティア活動を通して、利用者とのかかわり方を学び、また連携機関との協働のあり方を学び福祉実践基礎力を身に付けることを目的とする。

具体的には、ボランティア活動は『事前学習・準備 ⇒ 実践（活動） ⇒ 事後学習（フォローアップ）』という一連の学びの過程を通して福祉専門職としての福祉実践基礎力を身に付けることである。いずれも実学的専門教育である「ボランティア活動」の授業の中で実施した。

○内 容・実 績

2021年11月25日9時30分から11時30分まで、大学から歩いて15分程の稲西公園で、同朋大学社会福祉学部3年生10人が、環境美化ボランティア活動を実施した。

実施内容は落ち葉拾いで、園を管理されている名古屋市中村区土木事務所の協力を得ることができた。公園事務所よりボランティア袋を50枚いただき、50枚すべてが落ち葉でいっぱいになった。2時間程度実施して、公園の半分ほどがきれいになったが、学生の皆さんからはもっとやりたいとの声が上がった。今回のボランティアで、学生の皆さんは満足そうな様子で、ちょっとした社会貢献になった。

○成 果

学生は、環境美化ボランティア活動を通じて、連携機関との協働・連携のあり方を学ぶことができ、福祉実践基礎力は高まった。また、学生の皆さんもすっきりした気持ちになり満足そうで、ちょっとした社会貢献の大切さを学んだ。

5.「傾聴活動論」

○目 的

傾聴に学ぶ。傾聴士とは何かについて理解し、その役割も知る。同朋大学認定「傾聴士」の資格取得に向けて、その理論と実践のあり方について理解する。

○内 容・実 績

2021年度は、2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、遠隔授業と対面授業を組みあわせて実施された。

この取り組みは、同朋大学認定「傾聴士」の基礎科目になっていて、福祉実践基礎力の中でも、傾聴力を高めることを目的に行われた。学生は、ボランティア論、カウンセリング論、コミュニケーション論を学び、それ



に関するロールプレイやグループワークといった演習を通じて、傾聴の技能を身につけた。また、学生は人の話を傾聴することの難しさも学んだ。

なお、昨年に引き続いて、いなべ市社会福祉協議会に登録して傾聴実践活動をしていらっしゃる実践者をお招きしての特別講義は中止した。新型コロナウイルス感染症が終息に向かい、来年度は実施できることを祈っている。

#### ○成 果

学生は、講義においてボランティア論、カウンセリング論、人間関係論、コミュニケーション論の基礎理論の学びとそれに関する演習を通じて、傾聴技能を身につけることができた。

### 6. 「その他（実務家を招聘する科目）」

#### ○目 的

主に3・4年生のゼミ（社会福祉専攻：社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、子ども学専攻：総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）において、ゼミ担当者がゼミの学習内容を深めるために、社会福祉現場で働く実務家を招聘する。そしてスムーズな就業につなげるための一助とする。

#### ○内 容

企業・地方公共団体・社会福祉施設・教育機関等の第一線で働いている実務家に就業動機、職務内容などの講義を拝聴するとともに、学生が実務家とコミュニケーションを図ることにより、ゼミの学習内容を深める。

#### ○実 績

- (1) 「実務家を招聘する科目」（テーマ：保護者と共に子育てを!家庭的保育事業とは?)

開講日 2021年11月 25日（木） 10時40分～12時 10分

講 師：木下 詩織 氏

「社会福祉演習Ⅱ（第10回目）」では、家庭的保育室で勤務されてい

る木下氏を講師にお迎えし、「保護者と共に子育てを!家庭的保育事業とは?」をテーマとする講義を行った。名古屋市の保育所等の現況、地域型保育事業、家庭的保育事業等について、歴史にも触れながら概要を分かりやすく解説していただいた。その上で、実際に子ども達がどのような生活をしているのか、支援者は子ども支援と保護者支援をいかに展開しているのかについて、具体的な事例を交えてご指導いただいた。

参加学生からは、「保育士資格を取ろうか迷っており、今回の家庭的保育事業について初めて知ったのでとても興味がわきました。」「家庭的だと一人ひとりに時間をかけられるメリットもあるがデメリットもあることを知った。地域の資源などたくさん活用していて素敵だと思った。」等の感想が寄せられ、現場の実態を学べる有意義な時間となった。

## (2) 「実務家を招聘する科目」

子育て支援の一環として取り組んでいる「キッズカレッジ」は、コロナ禍のため2020年度から動画配信となっている。1年Aゼミでは、親子で楽しめる「おやつづくり」を企画し、「フルーツポンチ」を作ってみたがうまくいかなかった。そこで、7月20日、栄養士でフードコーディネーターの水野久美先生に栄養指導と調理実習の指導をしていただいた。0歳から3歳くらいまでの子どもが食べやすいおやつの形態や味、アレルギーなどについて納得できた。おやつとしてご提案いただいたのは、海藻を原料とした「アガー」を使って柔らかいゼリー状にした「フルーツジュレ」であった。1歳くらいから自分でスプーンですくって食べることもでき、材料を混ぜたりフルーツを入れたり参加する喜びも味わえることが分かった。最後は「箸の使い方」までご教授頂き、参加した学生は感動していた。

## ○成 果

3・4年生の専門ゼミにおいて、ゼミ担当教員がゼミの学びの質をより以上に深めるために、社会福祉現場で働く実務家を招聘し、講義を拝聴することによって福祉実践基礎力ひいては福祉実践力が高まった。

### Ⅲ. 同朋大学社会福祉学部福祉実践基礎力と アクティブラーニングについて

#### ○目的

同朋大学社会福祉学部では、豊かな教養を培って人間と社会に関する心理を探究し、社会福祉及び関連分野に関する専門的知識と技能を習得して、共に生きがいのある社会の実現に寄与するための教育・研究を行っている。そこで、通商産業省が提唱した社会人基礎力をもとに、平成24年度より社会福祉学部の学生に必要な福祉実践基礎力を考案し、毎年測定して教育に反映させるよう努めている。また、教育効果を高めるために、教科内容に合わせてアクティブラーニングの手法も取り入れるよう努めている。

#### ○内容

本学部の目指す人材を育成するために、初期段階としては基礎学力や専門知識などの育成を図っていて、さらに福祉実践基礎力を目標にして教員や学生を測定しながら育成を進めている。この福祉実践基礎力は、「心が動く力（主体性、協働性、目的性）」、「じっくり考える力（課題分析力、計画力、気づき力）」と、「共に生きる力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレス把握力、ストレス解消力）」の3つの能力から構成されています。前者2つは個人的能力で、最後のものは社会的能力になる。

この福祉実践基礎力を測定するために、学生用には「同朋大学福祉実践基礎力診断票」をMicrosoft Formsで作成し、年度末に1～4年生の学生にweb経由で入力して集計している。また、教員には福祉実践基礎力とアクティブラーニング実施状況のアンケート用紙を配布して記入してもらい、集計している。

○実 績

福祉実践基礎力は、社会福祉学部 of 学生に必要な能力を表す一つの指標として考えられたものだが、各学年とも2016年度は一旦下がったものの、2017年度や2019年度は急に高くなっている。もちろん数値が上下することはあるが、だんだん高い値で安定してきていて、いままでの取り組みが学生たちに持続的なインセンティブを与えてきたからだと推察される。ただし、2020年度は、新型コロナウイルス流行による遠隔授業の対応などで、1年生の「心が動く力」があまり高くなかったが、2021年度は全学年で上昇して過去最高の値をとるものが多くなっている。

■福祉実践基礎力の学年別平均点の推移（2015～2021年度）

	心が動く力							じっくり考える力							共に生きる力						
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1年生	3.90	3.47	4.08	3.79	4.01	3.87	4.14	3.64	3.24	3.79	3.67	3.79	3.82	4.10	3.62	3.30	3.80	3.68	3.79	3.77	3.96
2年生	4.02	3.37	3.98	3.69	3.85	3.74	3.78	3.58	3.25	3.67	3.40	3.58	3.67	3.74	3.67	3.22	3.72	3.61	3.71	3.80	3.80
3年生	4.23	3.21	3.96	3.71	3.90	4.14	4.17	4.04	3.05	3.63	3.51	3.62	3.85	3.87	4.06	3.08	3.72	3.60	3.68	3.81	4.02
4年生	3.88	3.59	4.13	3.74	4.07	3.86	4.15	3.57	3.27	3.82	3.50	3.67	3.53	3.84	3.69	3.43	3.90	3.90	3.91	3.79	3.99

(注) 数値の範囲は1～5で、5に近いほうが各々の力は強い。

次に、福祉実践基礎力と専任教員の育成したい資質との関係を見る。教員の養成したい資質に関係の深い能力は、「心が動く力」「じっくり考える力」、「共に生きる力」どれもほぼ同じような優先順位になっている。そして、下表の能力要素でみると、教員は、「気づき力」と「傾聴力」を最も育成したく、次に「主体性」や「目的性」「柔軟性」を育成しようと考えている。

■教員が養成したい学生の資質（能力要素）

能力	心が動く力				じっくり考える力				共に生きる力							
	主体性	協働性	目的性	課題分析力	計画力	気づき力	発想力	傾聴力	柔軟性	状況把握力	情緒性	ストレス耐性	ストレス調整力			
よく当てはまる	12	10	12	11	11	15	10	15	12	8	8	6	7			
どちらかというと当てはまる	7	9	8	8	7	4	10	5	7	11	12	14	12			
どちらでもない	1	1	0	2	3	2	1	1	2	2	1	0	0			
ほとんど当てはまらない	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2			
全く当てはまらない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

最後は、教員のアクティブラーニングの実施状況と学生の能動的な学び

## 中部圏教育改革ネットワーク

とをまとめたものが下表になる。いずれのアクティブラーニングでも学生は能動的に学ぶようになってきているが、特に「振り返り」「学生参加型授業」「グループワーク」などを取り入れた授業では、学生が能動的に学ぶようになってきている。

■アクティブラーニングの実施状況と能動的学び

	実施教員数	学生が能動的に学ぶようになった				
		よく当てはまる	どちらかというと当てはまる	どちらでもない	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない
学生参加型授業	19	18	1	0	0	0
共同学習を取り入れた授業	19	14	5	0	0	0
PBL（課題解決型学習）	19	8	11	0	0	0
PBL（プロジェクト型授業）	19	9	10	0	0	0
グループワーク	19	18	1	0	0	0
ディベート・討論	19	8	11	0	0	0
フィールドワーク	19	7	12	0	0	0
プレゼンテーション	19	14	5	0	0	0
振り返り	19	19	0	0	0	0

## ○成 果

福祉実践基礎力を考案したことは、学生や教員に具体的な学びや育成の方向性を与えてきた。そして、具体的な能力や要素を掲げることによって、学生や教員の目指す教育内容を、人材育成という側面からわかりやすく理解できたと思う。この方向性と教育方法が絡み合わさって、学生たちのインセンティブが向上しているようである。

## お わ り に

同朋大学社会福祉学部では、平成22年度文部科学省大学改革推進等補助金「大学生の就業力育成支援事業」に応募し、「持続可能な福祉実践力を高める取り組み」というテーマで採択された。引き続き平成24年度から平成26年度においては「産業界のニーズに対応した教育改善・充実整備事業」に採択され、中部地区23大学の参加校として、東海Bチームに所属し、「アクティブラーニングの活用」、「地域連携事業」を推進し、

福祉実践基礎力、福祉実践力の向上を目指して事業を推進してきた。その後、中部圏教育改革ネットワークの一員として参加校との連携を継続している。

平成27年度からは大学において自己資金を投入し、「同朋大学社会福祉学部 大学教育改革推進事業」として7年間事業を継続してきた。現在は、社会福祉学部の教育活動に一環として位置づけられるようになったといっても過言ではない。大学関係者のご理解とご協力に感謝の意を表したい。

なお、来年度に向けて、コロナ禍での遠隔対応も考慮に入れながら、OB・OGにもご協力いただきながら、この事業を進めてまいりたいと考えている。

#### 注記

- 1) アクティブラーニングとは、授業者が一方向的に知識伝達をする従来型の講義形式ではなく、学生参加型授業、共同学習を取り入れた授業、課題解決型学習やPBL (Problem-Based Learning/Project-Based Learning) など、学生の能動的な学習をとりこんだ授業を総称するもの。

#### 引用文献

- 1) 平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」申請書
- 2) 「同朋大学社会福祉学部 2021年度大学教育改革推進事業 同朋大学社会福祉学部教育プログラムの概要」2020.
- 3) 同朋大学社会福祉学会編『S学会ジャーナル Vol.23』2022.

#### 参考文献

- 1) 和木康光『同朋和敬 — 同朋大学のあゆみ —』中部経済新聞社,2002.
- 2) 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて(答申)』2008.
- 3) 角方正幸・松村直樹・平田史昭(共著)『就業力育成論 実践から学ぶキャリア開発支援策』学事出版,2010.

## 中部圏教育改革ネットワーク

### 謝辞

この実践報告をまとめるにあたり、中部圏ネットワーク委員会（旧 産業界ニーズ委員会）の委員の先生方をはじめ、社会福祉学部の教職員、事務部の職員の皆様の協力を得た。ここに感謝の意を表します。

（本学社会福祉学部教授：社会保障論）